

# 序

社会医療法人財団白十字会 理事長 富永 雅也



社会医療法人財団白十字会は、1929年、初代理事長富永猪佐雄が佐世保市宮崎町に診療所を開いて以来、長崎大学、福岡大学、佐賀大学や医師会の先生方を始め、関係各位のご指導とご援助をいただきながら、昭和・平成と80数年間を歩んでまいりました。

2015年は終戦から70年目の節目の年となりました。白十字会の歴史においても、1945年6月29日の佐世保大空襲において、診療所の焼失という戦災を被っています。その大きな失望の後、70年という長い年月をかけて、白十字会グループがここまで発展できたのは、諸先輩方の努力によるものであると、この節目の年にあらためて感謝する次第です。

また、明るい話題としてはラグビーワールドカップで男子代表チームの世界を驚かす大活躍がありました。それまでワールドカップでは僅か1勝しかしていなかった日本ラグビーですが、エディ・ジョーンズヘッドコーチの指導の下、優勝候補といわれた南アフリカに劇的な逆転勝利を飾りました。惜しくも決勝トーナメント進出は逃しましたが、日本中にラグビーブームを巻き起こし、国民に感動を与えました。

そのラグビー日本代表に、リーチ・マイケル主将をはじめとした外国出身選手が多く選出されていたことは記憶に新しいと思います。ルール上認められ、なおかつ実力や実績も十分な素晴らしい選手たちでありながら、そのメンバー構成に批判的な意見も一部見受けられました。

しかし、彼らは自身の出身国ではなく日本代表になることを選び、日本代表の勝利という目標のために、全力を尽くしていました。日本人選手もそれに負けじと頑張り、様々な背景を持つ全員の力を結集したことにより、あのような素晴らしい結果が出たのだと思います。

さて、医療や介護の世界も同じように異なる背景を持つ専門職の集合体です。白十字会も例外ではなく、専門職種の数も20を超え、法人全体の職員数は約2,900名を数えます。その全員が「白十字会」というチームを構成しています。

2025年問題等、大きな変化を迎えている医療業界において、白十字会は医療・介護を受ける皆様に、的確なサービスを提供しなければなりません。白十字会の基本理念「患者さんが1日も早く社会に復帰されることを願います」という1つの目標に向かって、各職種がスクラムを組み、もてる力を十分に発揮し、チームとして連携することで、多くの問題にトライしていく所存です。

さて、このたび、碓病院長のリーダーシップのもと関係各位の尽力により佐世保中央病院の2015年度病院年報が完成いたしました。ぜひお手に取って、この素晴らしきチームの中身を知って頂ければと思います。

いつも佐世保中央病院に賜りますご厚情に深く感謝、お礼を申し上げ、関係各位の今度共のご指導とご援助をお願い申し、序文といたします。

# Annual Report 2015

## 発刊にあたって

佐世保中央病院長 碓 秀樹



Annual Report 2015〔病院年報〕の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

日頃、佐世保中央病院の運営に関しまして、多大なるご協力をいただきまして心から感謝申し上げます。2015年度は、「地域医療構想」により病床機能の分化と連携の推進が求められ、いよいよ大きな変革の始まりの一年でした。佐世保中央病院におきましては、前年の南館増築に引き続き、本館改築工事が完了し新たな装いで診療開始となった一年でした。

病院統計として、病床稼働率（動態）86.1%、新規入院患者数6,655人、平均在院日数14.5日、手術件数1,565と前年度を上回る結果でした。

2008年に承認された地域医療支援病院の使命として、また在宅医療推進のためには、かかりつけ医との連携強化（2015年度：紹介率88%、逆紹介率121%）が最重要課題と考え、これまでの経過報告会（毎月第三木曜）に加え、10月2日に第1回地域連携懇談会を開催し、48施設160名を超える方々の参加いただきました。今後も地域の先生方に信頼をいただき、お互いにWin-Winの関係を構築していきたいと考えております。

また社会医療法人（2011年承認）として救急医療にもさらに力を注ぎ、拡張整備された救急外来で、多職種連携を強化し、救急外来患者数5,860人、うち救急車搬送数2,454台（前年度より241台増）、ともに年々増加しています。今後も地域の救急医療の一翼を担っていききたいと考えています。

各診療科および5つのセンターで安全で質の高い医療を提供すべく、チーム医療を推進してまいりました。その1つの認知症疾患医療センターは、年々増加する認知症患者さんの診断・治療、ご家族の相談に、医師1名と精神保健福祉士2名、他総勢8名のチームで

対応しております。また地域の先生を対象とした認知症サポート医研修会、院内職員への認知症の教育、法人内認知症認定看護師の育成、患者家族への講義（メモリー・クラスルーム）、市民公開講座の開催など精力的に活動しています。

患者満足度調査で、各部門に対する満足度は前年度より高くなっており、また患者さんからの「ありがとうカード」や感謝のご意見が増えたのは、この一年間全職員で接遇を心掛けてきた成果と思われ、今後も患者さんからの「ありがとうカード」を、一枚でも多くいただけるよう各自努力していきたいところです。

今後も全職員一つとなり、さらに質の高いそして安心とやさしい医療と看護を提供できるよう邁進していきたいと思っております。今後とも関係諸機関および地域の皆様のご指導とご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い致します。

# CONTENTS

## 序

### 刊行にあたって

## ① 病院概要

沿革	6
理念・方針	11
基本情報	14
病院の取り組み	18
地域医療支援病院	19
臨床研修指定病院	22
脳卒中センター	23
認知症疾患医療センター	23
長崎県指定がん診療連携推進病院	24
日本医療機能評価機構認定施設	24
メディカル・ネット99	25
PREMISs	26
ISO15189	27
社会貢献(CSR)活動	28
第1回地域連携懇談会開催	29
入院支援センター	29
学会認定施設	30
施設基準	31
電子カルテ(HOMES)紹介	33
ボランティア活動	33
白十字会Institute	34

### 病院統計

診療実績	37
紹介率・逆紹介率	38
月別外来延患者数(1日平均)	38
月別入院延患者数(1日平均)	39
病床(動態)稼働率	39
平均在院日数	40
1日平均在院患者数(静態)	40
新規入院患者数(全体)	40

### 救急統計

救急外来受診者数と救急車搬入数	41
救急外来受診者の年齢分布	41
救急外来の診療科別内訳	42
救急車搬入時の診療科別内訳	42

### 診療情報統計

疾病大分類	43
疾病大分類(推移)	43
悪性新生物	44
悪性新生物上位15部位(推移)	44
退院患者(上位30疾患)	45
死亡退院患者率	46

### 臨床評価指標

入院中の新規褥瘡発生率	47
入院患者の転倒・転落発生率	48
入院患者の転倒・転落による損傷発生率(レベル3以上)	48
輸血製剤廃棄率	49
術中・術後の大量輸血患者の割合	50
糖尿病の患者さんの血糖コントロールとHbA1c(HbA1c<7.0%の割合)	51
感謝状	52

### 満足度調査

## ② 診療部

外来診療担当表	62
呼吸器内科	64
内分泌内科	66
腎臓内科	67
神経内科	69
リウマチ・膠原病センター	71
糖尿病センター	73
消化器内視鏡センター	75
人工透析センター	77
循環器内科	79
外科	81
整形外科	84
脳神経外科	86

心臓血管外科	88
皮膚科	90
小児科	92
泌尿器科	94
耳鼻咽喉科	96
放射線科	97
麻酔科	99
病理部	100
認知症疾患医療センター	102
健康増進センター	106
研修医の紹介	108
学会発表実績	109

### 3 各 部

看護部	128
薬剤部	134
放射線技術部	136
臨床検査技術部	138
臨床工学部	140
リハビリテーション部	142
栄養管理部	144
感染制御部	146
医療安全管理部	148
臨床研究管理部(治験管理室)	150
事務部	
医療事務課	152
医局秘書課	154
資材課	155
施設課	157
システム開発室(法人本部・医療情報本部)	158
総務室・財務室・人事管理室・広報室	159
地域医療連携センター	160
健康管理部(健康増進センター)	163

### 4 委員会

委員会組織図	166
活動報告	
病院機能向上推進室会議	167
研修管理委員会	167
院内感染対策委員会	168
栄養管理委員会	168
防火管理委員会	169
労働安全衛生委員会	169
救急部運営委員会	170
薬事委員会	170
クリニカルパス委員会	171
医療情報管理委員会	171

### 5 巻末資料

院内行事	174
新規医療機器紹介	175
患者会・家族会活動実績	177
資格取得奨励支援制度	181
提案制度	181
新聞記事などの紹介	182
学会発表実績	183